

## 〔V〕「論文」試験問題解答例

論文試験では、論題の趣旨を理解した上で、設問に的確に答えることが求められる。設問は、①あなたの考える「品質」のポイントを15字以内の言葉で表現、②そのように表現した理由、③あなたの考える品質を達成するために繊維製品品質管理士として取り組まなければならない課題（問われているのは課題であり、対策ではないしまたTESの役割やあるべき姿でもないことに要注意）、の3点である。これらの3つの設問に対する的確で内容が深く、論旨が一貫している解答が600～800字にまとめられているかが評価の対象となる。

論文試験では、表現の的確性、内容の深さに加え、論旨の一貫性が評価される。この論題の場合は、上記①～③を別々に論じるものではなく、一連のものとして論じられるべき性格のものである。論旨が一貫しているかどうか重視される。

記述に当たっては、濃い鉛筆ではっきりと文字を書くなど他人が見て読みやすいように心掛ける。原稿用紙（よこ書き）の正しい書き方（段落の書き始め、句読点の書き方など）に則り、誤字・脱字・当て字の無いようにする（キーワードの用語用字の間違いや目に余る漢字力の不足は減点対象になる）。一般に論文試験では、簡条書きや体言止めは相応しくないとされている。

論題と直接関係ない事項（自身の職歴、受験動機など）が書いてある場合は、その部分を削除した上で600～800字の範囲であるかどうかを判断する。

「品質」について自分の思うことを自由に取り上げる論題であるので、多様な解答があり得る。ここでは2つの解答例を示す。

## [解答例 I]

「安心・安全は当たり前」、これが私の考える品質のポイントである。

このように表現した理由は、私を含め今の人々は繊維製品に対し疑いの気持ちを持って購入する人はほとんどいないからである。品質は当たり前のもので、購入時の選択の基準はデザインや流行である。これは品質に関心が無いのではなく、品質に対し信頼しているからである。

このように安心・安全が当たり前の品質になったのは、安心に関しては使用中の破れや色落ちなどの物性試験、安全に関しては折れ針の検査、遊離ホルムアルデヒドの分析や発がん性のある特定アミンを含むアゾ染料使用の有無の確認など、多方面から丁寧にチェックしてきた作り手や売り手の努力の積み重ねにより、消費者の信頼を得てきたからである。

この受け継がれてきた品質を守り続けていくために、繊維製品品質管理士として、また繊維製品の試験機関で働く者として取り組むべき課題が2つある。課題の1つ目は、日々

の業務で行うことに関してである。毎日様々な製品の試験をし、同じものはない。取扱い表示の通り洗っても外観や寸法などに悪い変化は起きないか、乳幼児の服や下着に基準値を上回るホルムアルデヒドが含まれていないかなど、最新の情報を取り入れながら現時点で必要とされ且つ十分な検査項目を一つ一つ正確にそして確実に検査することが課題であり、このことが当たり前品質の確保につながる。

課題の2つ目は、個々人の地道な活動に加え、川上から川下まで全ての段階に在籍する繊維製品品質管理士が、品質を保持するために必要な知識を共有するための活動を協力し合って活発に行うことである。

以上の2つの課題を解決することを今後の活動の指針として行動し、「安心・安全は当たり前」といわれる品質を守り続けていきたいと考えている。

## [解答例Ⅱ]

私の考える品質のポイントは、「品質は工程でつくるもの」である。ここでいう工程は、企画から生産、試験、販売までの企業活動全てをいう。

このように表現した理由は、品質は検査で判断することによって達成されると考える人が少なくないが、しかしながら企画段階での生地の設定やデザインを決める時から最終製品の品質のことを考え、生産工程中も最終製品の品質がどうなるかを考えて製品を作らないと良い製品は得られないからである

品質を工程で作り込むためには、色々な部署に所属する繊維製品品質管理士が連携して取り組まなければならない課題は5つあると考える。まず1つ目の課題は、社内の従業員一人一人がどの職場であっても品質に関わっているという意識を持つような組織づくりである。教育研修に加え、クレームや品質トラブルが発生した場合、その内容や原因、この後の対策などを社内ネットワークにより知らせて全従業員が情報を共有

できるようにする。

2つ目は企画段階での課題で、使用する素材や副資材、デザインなどについて、企画担当者と生産・試験・販売などの部署の担当者が意見を交わす場を設けることである。

3つ目の生産段階では、工程管理体制の整備に加え日々改善を志すことが課題である。

4つ目の試験に関する課題は、最終製品の試験だけではなく、中間工程での抜き取り試験も含め、いつどの工程で、どんな試験をするかについて試験体制の整備とそれを定期的に見直す仕組みづくりである。

5つ目の販売の課題も繊維製品品質管理士が担当するのが相応しい。企画段階で消費者の目線からの発言と共に、消費者に判りやすく、メリットだけでなくデメリットも正確に伝えるために、取扱い表示や下げ札の文面の作成にも参画する。販売は消費者とのコミュニケーションの場である。消費者の要望をしっかりと聞き、関係部署に伝える。